



全国一般評議会

闘争情報

No.270

2015. 3. 16

東京都千代田区六番町 1

TEL 03-3263-0441

FAX03-5210-7422-5

第12回青年・女性交流会を開催 —学習・交流の成果を全ての労働者・地域に広げよう—



3月14日～15日、岡山市において、自治労全国一般評議会第12回青年・女性交流会を開催し、全国から41人が参加した。

交流会の冒頭、主催者あいさつで、種井全国一般評議会事務局次長は「この交流会が始められた2004年当時と比べて、われわれの置かれている状況はどうなったかといえば、格差の拡大、労働者が分断されている状況など、よりひどくなっているのではないかと思う。青年労働者・女性労働者の活動をどのように頑張っていくのかということと並行して、労働者が分断されている状況を突き破って、労働者全体が一つにまとまることを追求していく必要がある」と、また、宮原岡山地方労組青年女性部長は「格差を拡大させ、また、戦争への道を突き進もうとしている安倍政権に対して、私たちは、今こそ、しっかり声を上げたかうことが重要だと考える」と述べた。さらに、寺元岡山地方労組委員長、古林自治労岡山県本部委員長、中原自治労岡山県本部女性部長から地元歓迎あいさつを受けた。

労働者が分断されている状況を突き破って、労働者全体が一つにまとまることを追求していく必要がある」と、また、宮原岡山地方労組青年女性部長は「格差を拡大させ、また、戦争への道を突き進もうとしている安倍政権に対して、私たちは、今こそ、しっかり声を上げたかうことが重要だと考える」と述べた。さらに、寺元岡山地方労組委員長、古林自治労岡山県本部委員長、中原自治労岡山県本部女性部長から地元歓迎あいさつを受けた。

【解決策は基地撤去】

次いで、自治労沖縄県本部副委員長で沖縄平和運動センター事務局長の大城悟さんから「沖縄の基地問題と反戦・平和運動」をテーマに講演を受けた。大城さんは、「沖縄の日本復帰から43年たつが、いまだに広大な米軍基地が居座り続けている。そして、基地の存在に起因する、様々な事件・事故が跡を絶たない。こうした問題の根本的解決のためには、基地を撤去するしかない」、「こうした主張に対して、『米軍基地がないと沖縄の経済は成り立たないのではないか』という人がいるが、復帰当時はともかく、現在は、逐次返還されてきた基地の跡地の再開発などが、沖縄の経済に良い効果をもたらしてきていることが実証されている。経済が活性化しさえすればそれでよいという話ではないが」、「この間の名護市長選挙、沖縄県知事選挙、衆議院総選挙とすべて辺野古新基地建設に反対する候補が勝利してきた。にもかかわらず、国は辺野古新基地建設の動きを進めている。菅官房長官が『粛々と、粛々と』などと言っているのは、仲井真前知事が辺野古埋め立て申請を承認したことによって、この問題は決着済みとの態度なのである」、「そして、現在、辺野古現地での反対運動に対する、海上保安庁の対応には本当にひどいものがある。力づくで、反対運動のカヌーをひっくり返して、人もろとも、海上を引きずって行って放置したり、あるいは、拘束したり、といったことを繰り返している。暴力集団が殺人未遂を繰り返しているようなものだ。これには、10年前頃とは違って、『反対派を力づくで排除しに行け』との命で、全国から海上保安官が動員されて

いるようだ」、「沖縄・日本にとどまらず、『これは政府がやっていいことではない』という識者の声・世論が高まってきつつある。これをもっと盛り上げていきたい」と、辺野古新基地建設問題をはじめ沖縄の基地問題についての考え方、決意を述べた。そして、大城さんは、これらの問題における労働組合の役割について、「労働組合の人は、『一般の人』よりも、例えば『自治労』という組織の中で、より情報の共有化をはかることができている。その情報をさらに外に伝え、運動を広げていくのは、私たちの責務だと思う」と述べた。



【労働組合の反戦・平和運動への関わり】

大城さんの講演後には、講演を受けての感想や労働組合の果たす役割などについての、4つの分散会討論に移った。各分散会では、①労働組合の内外で、各々が「知っていること」・「知らないこと」についての情報収集・交換、そして、それらを通じての各々の認識の豊富化をどのように行い、また、どう具体的な行動につなげていくことができるか、②各参加者の地元における自衛隊基地や原発などの問題に対して、各々やその所属する労組が、これまでどうかかわってきており、今後どうしていくか、といったことなどが話されたようであった。

また、「そもそも、『なぜ、労働組合が、職場・労働条件の問題にとどまらず、反戦・平和運動に取り組むのか』についての理解が広まらない」との発言に対して、「賃金・労働条件の改善によって自分や家族の生活を守るのと同じように、平和な社会を築くことによって自分や家族の生活を守ることになるということを改めて確認しよう」とアドバイスしあう姿もあった。

また、第1日目の夜の夕食懇親会では、参加者全員の自己紹介も行われ、さらに交流を深めた。

【青年・女性運動の活性化に向けて】

交流会2日目の部では、まず、前日の各分散会の内容の概要報告、さらに、今交流会に参加した各地方労組の代表者から、青年・女性部や地方労組の特徴的な活動の報告が行われた。

次いで、種井事務局次長、寺元委員長、宮原青年女性部長をシンポジストとして、「青年・女性運動の前進に向けて」と題してのシンポジウムを行った。シンポジウムでは、青年・女性(部)運動の活性化に向けて、①本日もお互いに持ち寄っている各組織の活動上の工夫、②活動への参加呼びかけ等の際の熱意、③各地方労組の基本組織に対して要望・意見を出していく姿勢、の重要性などについて論じあわれた。



【「つかんだもの」を広げてほしい】

以上のような今回の交流会の状況を受けて、交流会の総評として、種井事務局次長は「全国一般にはいろいろな職場・職種の方がいる。そうした人々が集った、この2日間の学習・交流の中で、皆さんは、何かつかんだものがあったらと思う。どうか、その『つかんだもの』について、しっかり自分のものとするとともに、各々の青年・女性部、全国一般組織、地域に押し広げていってほしい」と述べた。そして、交流会は、宮原青年女性部長の音頭による団結ガンバロー三唱で閉会した。